令和７年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立粉浜幼稚園

令和８年３月

（様式１）

大阪市立粉浜幼稚園　令和 ７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

○本園は、昨年度、創立１００周年を迎えることができた。１年を通して、創立１００周年を祝う取組を様々に行い、子どもたち・保護者・教職員・地域の皆様とお祝いすることができた。今まで大切にはぐくまれてきた粉浜幼稚園の教育内容や魅力を大きく発信でき、住之江区の公立幼稚園として、今後も教育の要となるよう期待が高まっている。保護者の保育ニーズの変化など今般の状況から、園児数は少ないものの、粉浜幼稚園の良さを感じて選んで入園してくださり、現状を維持している。粉浜幼稚園の良さを生かした特色ある取組を通して、どのように教育内容を充実させていくか、また、園の魅力をどのように発信していくかを大きな課題と認識し、取組を積み重ねている。今年度も、教育内容や行事、地域との交流などについて、教職員全員で一つ一つ見直し、小規模園であることを良さに変え、様々な方と交流し、子どもたちの心が豊かに成長していくようにしたい。

また、令和６年度の園運営全体を通して、中期の目標の達成状況は、ほぼ目標通りに達成できたと言える。４年計画の４年目として、更に改善点を考え、取り組んでいく。

【安全・安心な教育の推進】

○安全指導において、子どもの実態に合わせ、機会を逃さず、危険な箇所や行動などを把握し、環境構成を見直し、全教職員で全園児を見守る体制づくりに力を入れてきた。また、災害時や緊急時に自分で自分の身が守れるような避難訓練の積み重ねや想定したことがない場面を様々に検討して訓練し、教職員自身の危機対応に対する意識を高めてきた。今年度も取組を継続し、『子どもたちが、生活の中で、安全に過ごそうとする気持ちが育つような保育内容や環境の工夫を行い、園での取組を保護者に伝わるような工夫を行っていきたい。

○挨拶は、人と人とをつなげ、コミュニケーションをとるために重要である。取組の積み重ねにより、教師や友達に自分から挨拶する子どもや挨拶当番に意欲的に取り組む子どもが増えてきている。令和５年度、園の取組や園内で子どもたち一人一人が進んで挨拶をしようとする成長の姿が、保護者に伝わりにくい所もあったため、保護者と共に挨拶当番を行ったり、月末の保育室降園のときに、挨拶の取組目標を保護者にも伝えたりするなど、工夫してきた。それでも、幼稚園での子どもの育ちが実感しにくい現状もあった。今年度は、子どもたちが挨拶をする心地良さや大切さを感じ、進んで挨拶ができるように、さらに、年間計画を見直すとともに、園の取組や子どもが成長していく姿が保護者に伝わるように保育内容や情報発信の工夫を行い、保護者が子どもの育ちを実感できる工夫をしていきたい。教師や子ども、保護者が共に挨拶の気持ちよさを感じていけるように、取り組みたい。

○昨年度の取組で、子どもたちは、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の思いに気付き受け止めて遊ぶようになってきている。今年度も、お互いの思いや違いを認め合い、育ち合うことができるように、話し合いの時間を大切にし、指導内容の工夫を行いたい。教職員の園内委員会を充実させ、一人一人の子どもの実態や課題、支援の方向性を共通理解し一人一人を大切にした教育を目指していきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和５年度から、「遊びの中で、体を動かして遊ぶことを楽しむ子ども」を育てるために、環境や保育内容、教師の教育的な働きかけを工夫してきた。体を動かして遊ぶ時間を十分にもち、教育内容を工夫して継続して取り組む中で、子どもたちは体を動かして遊ぶことが好きになり、遊びの中で、多様な動きが身に付き、挑戦する意欲も育まれた。３年目となる今年度も、その時期に応じた遊びの中で、より体を動かして遊ぶことが楽しめるような教師の働きかけや環境の工夫をし、子どもたちの育ちにつなげていきたい。また、日頃から大切にしている異年齢の交流内容を工夫し、お互いに影響し合い育ち合えるように、工夫していきたい。

○健やかな体の育成では、保護者と連携した取組の継続により朝食摂取、手洗い・うがいの習慣など家庭でも身に付いてきている。今年度も、健康な生活習慣が身に付くように更に子ども一人一人への指導を工夫すると共に、家庭でも継続して取り組めるように工夫していきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

○教育内容充実のためには、教職員が生き生きと働くことができるように、働き方改革推進プランに基づいて取組を進めることが重要である。しかし、今年度は、教員が一部事務分担をする内容が増えた。教職員全員で、声を掛け合い助け合って協力していく体制を工夫したい。また、教職員の研修を深め資質向上に努めるとともに、チームワークを大切に一丸となって教育活動に力を注いでいきたい。

○家庭・地域等と連携・協働した教育の推進では、園の魅力を保護者だけでなく、地域の方や多くの方に発信できるよう、ホームページの更新回数を増やした。その結果、教育内容の理解が進んできている。未就園児園庭開放の実施や地域との交流も様々に行うことができた。更に、教育内容が充実するように、地域の教育力を活用し取組内容を工夫していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和７年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

○令和７年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

○令和７年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を年度当初より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和７年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」の割合を年度当初より向上させる。

○令和７年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和７年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を８０％以上にする。

○令和７年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

園の年度目標

○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目について、肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。

○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を年度当初より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

園の年度目標

○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」の割合を年度当初より向上させる。

○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

園の年度目標

○本年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を８０％以上にする。

○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目について、「そう思う」と答える保護者の割合を８０％以上にする。

３　本年度の自己評価結果の総括

○本年度の幼稚園運営全体について
保護者アンケートや教職員アンケート結果の回答は、年度目標・中期目標において目標を上回ってまたは、目標どおりに達成することができた。

【安全・安心な教育の推進】

○「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目で肯定的な回答の割合が、１００％となり、例年（８１％）より高評価であった。日々の保育や行事、挨拶当番等、取組内容やねらいについて、機会を捉えて保護者に知らせ、理解や協力を得るようにした。また、挨拶当番の実施等、保護者と一緒にする活動を大事することで、子どもも自ら進んで挨拶する姿につながり、気持ちの良い挨拶が園内にひろがっていった。保護者自身も子どもたちの育ちを実感し目標達成につながったと思われる。

○「安全教育の推進」「防災・減災教育の推進」については、子ども自らが考えて安全な行動や避難行動ができるように取組を積み重ねたことが、目標達成につながった。また、今年度特に、子どもたちが使用する園舎・園庭の部分で第２期大規模工事があった。安全を守るために工事関係者とこまめに連携するとともに教職員での点検を頻繁に行った。子どもたちや保護者にも、安全な行動ができるように話をし、安心できる幼稚園を目指し、取り組むことができた。

○「人権を尊重する教育の推進」では、小規模園の良さを生かし、一人一人に寄り添った教育を実践した。「互いを認め合うことができる子ども」に育つよう、子どもの様子を丁寧に見たり、気持ちを推しはかったり、お互いの思いを出し合ったりできるように仲立ちをするなど、教職員全体で指導の方向性を共有し、どの教職員もその場に応じた支援ができるようにしてきたことが目標達成につながった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○「幼児教育の推進と質の向上」について、特に「体を動かして遊ぶことができるような環境や教師の働きかけの工夫と保育内容の充実」に力を入れた。幼稚園教育研究会第３ブロック研究部研究保育を実施した他、今年度の特色として『すみのえ運動遊びプログラム事業』（園×㈱ミズノスポーツサービス×区役所が連携）「楽しく体を動かして遊び体力の向上を図ること」を目的に年間を通して研究を実施した。「多様な体の動きが身に付いてきた」「喜んで体を動かして遊び、様々に挑戦する姿が見られるようになった」など幼児期にふさわしい育ちが見られるようになった。また、専門家から技術や知識を学ぶ機会となったことで、教員の資質向上にもつながった。住之江区唯一の公立幼稚園として、教育の要となれるように、今後も役割を果たしていきたい。

○「健康な体の育成」については、子どもの実態や育てたいことを明確にして指導を積み重ね、家庭と連携して子どもたちに基本的な生活習慣が身に付いていくように実践を積み重ねることができた。そのことが、目標の達成につながった。

【学びを支える教育環境の充実】

○「教員の資質向上・人材の確保」については、働き方改革推進プランに基づき、効率的に仕事ができるように様々に工夫してきた。「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目で肯定的な回答の割合は１００％であったが、園の状況や繁忙期には週１回のゆとりの日の実施も難しい時があった。「子どもたちのために」教職員みんなで助け合い、考えを出し合って教育の推進に努めることはできたが、より働きやすい環境を目目指し、教員一人一人が自分の力を発揮できるように、取組を工夫していきたい。

○「地域学校協働活動の推進」については、「家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目で肯定的な回答をする保護者の割合は１００％であった。今年度も、クラスを超えて異年齢での交流することを大切にし、未就園児活動や近隣幼稚園、小・中学校、地域の方々との交流の方法を工夫するなどしてきた。その積み重ねにより、子どもたちに「思いやり」「優しさ」「あこがれ」「挑戦意欲」など、心が豊かに育まれた。来年度、園児数が減少することが大きな課題となる。様々な人と関わりを広げ、子どもたちが心豊かに成長できるように工夫することが、ますます重要になってくる。地域や近隣の学校・幼稚園と連携を深め、お互いの教育を理解し楽しくできる交流内容を工夫していきたい。

（様式２）

大阪市立粉浜幼稚園　令和　７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
Ａ：目標を上回って達成した	Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった	Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 園の年度目標 ○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫を行っていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。 ○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、自分から挨拶をするようになった」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。 ○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 学校安全計画に基づき、安全指導を行う。（安全教育の推進） 指標 ・実態に応じて、安全に過ごそうとする気持ちが育つような保育内容、環境の工夫を月に１回行う。 ・園だよりやホームページ、掲示物等で、学期に１回以上、保護者啓発を行う。 ・関係諸機関と連携した安全指導を、年１回実施する。	B
取組内容②【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 災害時や緊急時における約束を知り、自分で考えて避難できるような指導を行う。（防災・減災教育の推進） 指標 ・避難訓練年間計画を見直し、多様な想定の避難訓練を年１０回以上実施する。 ・機会を捉えて年１０回以上、保護者啓発を行う。	A
取組内容③【基本的な方向２　豊かな心の育成】 進んで挨拶をする子どもを育てる。（道徳教育の推進） 指標 ・挨拶に意識がもてるように、挨拶の取組について年間計画を見直し、挨拶運動を学期に１回行う。 ・月に１回以上、園だよりや降園時の連絡などを利用し、保護者啓発を行う。	A
取組内容④【基本的な方向２　豊かな心の育成】 自分の気持ちや相手の気持ちに気付き、互いを認め合う子どもに育つような指導方法を工夫する。（人権を尊重する教育の推進） 指標 ・学期に１回園内委員会を行い、一人一人の子どもの実態把握や課題、支援の方向性などを共通理解する。	B

・自分の思いを出したり、友達の思いを受け入れたりできるよう、クラスでの話し合いの時間を週２回以上もつ。
・学期に１回以上、指導内容や子どもの姿を知らせ、保護者啓発を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○保護者アンケートにおいて肯定的な回答、「そう思う」の割合

項目	5月	11月	1月
①「幼稚園は、お子さんが生活の中で安全に過ごそうとする気持ちがもてるように指導や環境の工夫をしていますか」	肯定的回答 １００％ (そう思う 77%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 79%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 75%)
②「幼稚園は、安全教育、防災教育に計画的に取り組んでいますか」	肯定的回答 ９６％	肯定的回答 １００％	肯定的回答 １００％
③「お子さんは、自分から挨拶するようになった」	肯定的回答 ９１％ (そう思う 36%)	肯定的回答 ８６％ (そう思う 36%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 38%)
「お子さんは、入園前から挨拶をしていた」	肯定的回答 ５８％		
④「幼稚園は、子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」	肯定的回答 ９６％ (そう思う 83%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 90%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 75%)

取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】

○学校安全計画に基づき、保育内容や環境の工夫を行い、幼児が安全に過ごそうという気持ちをもてるよう取り組むことができた。

〈安全指導の内容〉

4月	○園内の安全な生活の仕方 ・子どもがつくったポスターを貼ったり、繰り返し伝えたりするなどし、身に付くよう知らせた。 ○遊具・用具の安全な使い方 ・遊具やハサミなどの用具を使う際に、使い方や約束を話し合ったり、確認したりした。また、自分で取り出しやすいよう環境の工夫をした。
5月～6月	○園外保育での安全行動 ・園内探検をし、安全な道の歩き方(右側通行、信号の渡り方、階段の昇り降り)を知らせた。 ○熱中症の予防 ・園庭での活動時間や内容の工夫、水分補給の徹底、ミストの活用を行った。
6月～7月	○プールでの安全な遊び方 ・プール遊びの前には、必ず準備体操や水慣れを行ない、大切さを知らせた。 ・プールでの約束や遊具・用具の使い方について、人間劇で知らせる等、分かりやすいように伝えた。 ○交通安全 ・終業式で、安全な道の歩き方や信号の渡り方を保護者と共に考えた。

８月～ ９月	○遊具の安全な使い方 ・巧技台やトランポリンなどの遊具の安全な使い方を知らせ、ルールを守って遊べるようにした。 ・幼児が安全に、自ら考えて遊べる環境を工夫した。(幼児の動線や安全に配慮した遊具の配置、順番やスタートが分かるようにラインや足型などで可視化)
１０月	○園外保育での安全行動(電車の乗り方、信号の渡り方など) ・電車の乗り方や道の歩き方(異年齢で歩く場合の歩き方)についてクラスで話し合い、安全に気を付けて行動できるようにした。 ○安全な遊び方 ・遊具(巧技台、竹馬、一輪車など)の使い方 ・鬼遊びなど集団遊びを通して、知らず知らずのうちに、人や物にぶつからないように避けるなど、身をかわしたり、安全に遊ぶ力を身に付けたりできるようにした。
１１月	○用具の安全な遊び方 ・ハサミなどの持ち方、使い方、片付け方などを再確認したり、タイミングを見逃さず、知らせたりして定着を図った。
１２月	○冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方 ・こま、凧、竹馬等の安全な遊び方 ○交通ルールの再確認 ・交通安全教室(住之江警察署交通ルールについて安全指導の実施) ○冬季休業中の健康で安全な生活について、園だよりや終業式等で知らせる。
１月	○園外保育での安全行動・大型遊具の安全な遊び方 ・電車での乗降の約束、大型遊具の安全な遊び方 ・凧あげ時の安全 ○室内での遊び、狭い遊び場での安全管理、教職員同士の連携・調整 ・園舎外壁塗装工事により、安全に生活するためのルールの再確認、啓発 ○交通ルールの再確認 ・登降園時、安全に行動する習慣を身に付ける。(始業式での安全指導)
２～３月	○安全な過ごし方の再確認 ・就学や進級に向けての生活について、保護者会や園だよりで知らせる。

○園舎外壁塗装工事のため、安全に過ごせるよう園内の点検・確認をし、登降園時や園内での過ごし方について、随時、子どもたちに知らせた。また、園内の廊下等を歩いて通行できるように５歳児や教師が立看板を作成し、視覚的に工夫した。自ら気づいて、安全な行動をしようとする姿につながった。

○毎月の園だよりで安全目標を知らせると共に、子どもたちに行なった安全指導を保護者へ周知と啓発をした。

○安全について親子で意識をもてるよう、学期に１回以上終業式や始業式、降園時など機会を捉えて繰り返し安全指導を行なった。年に１回、１月には住之江警察署による交通安全教室を実施することができた。

取組内容②【基本的な方向１　安心・安全な教育環境の実現】

○計１１回の避難訓練と、避難行動の振り返り(様々な災害にあったときの行動)『こんなとき、どうする？』を１回実施した。

避難訓練年間計画を見直し、教師が様々な非常時を想定して、具体的にどのように動くべきかを考えることで、参加する全員が意識をもって避難訓練をすることができた。また、実施後に教職員全員で反省会をし、振り返ることで新たな課題を見つけて共有し、より最善の方法で子どもたちを守れるように、課題解決に向けて話し合うことができた。５月の避難訓練では、大阪消防振興協会の方や消防署の方に来ていただき、指導を受けた。子どもたちは、教職員が消火訓練をする様子を見たり、消防車を見せてもらったりした。初期消火の訓練では、練習用の消火器を使って消火する様子を見ることで、消火器の役割を子どもたちは理解することができた。また、保護者参加の避難訓練や、引き渡し訓練では、幼稚園での避難訓練の様子を知ってもらうとともに、保護者の防災意識を高めるきっかけにもなった。１月の地震・津波の避難訓練では、粉浜小学校に２次避難し避難経路の確認をすると共に、津波の時はどのような行動をするかを小学生と共に子どもたちが体験することができた。

実施月	想定	実施内容
４月	火災 （各保育室で活動中、作業室から出火）	４歳児は、５歳児が避難する様子を見学。火災時は煙を吸わないようにハンカチで口や鼻を覆うこと、早歩きで避難することを確認した。
５月	火災 （各保育室で活動中、作業室から出火）	４歳児も参加し、鼻と口をハンカチで覆いながら園庭へ速やかに避難。消防振興協会の方から話を聞き、教職員の消火訓練と消防車を見学した。
６月	地震 （各保育室で活動中、地震発生）	緊急地震速報の放送を聞き、室内で身を守る体制をとった。揺れが収まった後に防災頭巾をかぶって速やかに正門前に避難。
７月	不審者対応 （各保育室で活動中、不審者が正門の外にいる）	不審者を確認し、教職員同士で情報を共有した後に１階廊下へ避難。園で PTA 活動中の保護者も一緒に避難し、非常時の行動を確認。
８月	地震 （始業式後、遊戯室で話を聞いている時に地震発生）	緊急地震速報の放送を聞き、身を守る体制をとった。揺れが収まった後に、保護者、子どもに向けて地震時の避難方法について話をした。
９月	地震 （保育室で活動中に地震発生、保護者へ引き渡し）	緊急地震速報の放送を聞き、身を守る体制をとった。揺れが収まった後に、園庭に避難をした。保護者へメール送信し、引き渡し訓練を行った。
１０月	不審者対応 （園庭で活動中、不審者が正門を乗り越えてくる）	教師の指示を聞き靴のまま園舎内に避難、安全な場所に速やかに身を隠す。 安全が確保できたことを確認し、教師の話を聞いた。
１１月	地震・火事 （ばら組：保育室で活動中 まつ組：身の回りの始末をしている時、地震、火事が発生）	緊急地震速報の放送を聞き、身を守る体制をとった。揺れが収まったのを確認した後、園内放送にて火事の発生を知り、防災頭巾をかぶり、口をハンカチでおおって園庭に避難した。
１月	地震・津波 （各クラスで活動中、地震発生。津波警報が発令されたため二次避難をする）	緊急地震速報の放送を聞き、身を守る体制をとった。揺れが収まったのを確認した後、園庭に避難をした。その後、粉浜小学校の運動場に２次避難をした後、４階にある図書室に避難した。

	地震 （預かり保育時間に、預かりの保育室で活動している時に地震発生）	緊急地震速報の放送を聞き、身を守る体制をとった。揺れが収まったのを確認した後、２階の保育室から階段を降りて園庭に避難をした。
３月	不審者対応 （各保育室で活動中、不審者が正門の外にいる）	不審者を確認し、教職員同士で情報を共有した後に１階廊下へ避難し、２次避難に備える。 安全が確保できたことを確認し、教師の話を聞いた。

○機会を捉えて１０回以上、降園連絡やホームページなどで、避難訓練時の子どもの様子を保護者に伝え啓発することができた。園が意識して避難訓練に取り組んでいる内容や課題を伝えた。また、保護者が共に訓練を行うことで、どう行動すればよいか考え啓発につながった。家庭ではどうすればいいか考えるきっかけになった。

取組内容③【基本的な方向２　豊かな心の育成】
○挨拶に意識がもてるように、挨拶活動の年間計画の見直し挨拶運動を学期に１回実施した。

	挨拶	○ねらい・取組内容
１ 学 期	「おはようございます」 「ありがとうございます」 「さようなら」	○挨拶をする習慣を身に付ける。(４・５歳児) ○挨拶する気持ちよさを知る。(５歳児) ○いろいろな挨拶があることを知る。(４歳児) ・登降園時の挨拶(幼児、保護者、教師)が習慣になるように、教師がモデルとなり、挨拶の仕方を知らせる。 ・5 歳児が挨拶当番活動を実施。挨拶週間を幼児の意欲や思いから 5/19～5/30 まで１週間延長して実施した。 ・未就園児活動での受付(5 歳児) ・降園時の挨拶当番(5 歳児) ・クラスでの当番活動(4・５歳児)
２ 学 期	「おはようございます」 「いってきます」 「さようなら」 「お願いします」 「よいお年をお迎えください」	○挨拶する気持ちよさが分かる(４・５歳児) ○年下の友達に挨拶の仕方を知らせたり、見本になって挨拶したりしようとする気持ちをもつ。(５歳児) ・５歳児が挨拶当番を実施(10/20～24)。４歳児も挨拶する大切さについて話し合った。 ・未就園児活動での受付(５歳児) ・降園時の挨拶当番(５歳児) １２月～4・５歳児、保護者も共に。 ・クラスでの当番活動(４・５歳児)
３ 学 期	「あけましておめでとうございます」 「おはようございます」 「お願いします」 「ありがとうございます」 「ありがとうございました」	○自ら進んで挨拶しようとする。(５歳児) ○進んで挨拶しようとする。(４歳児) ・降園時の挨拶当番を実施(5・４歳児、保護者) ・クラスでの当番活動(５・４歳児) ・５歳児、４歳児が挨拶当番を実施(2/25～3/2 挨拶週間) ・未就園児活動時の受付(５・４歳児)

○月１回の園だよりにて「挨拶の取組」を掲載した。月１回以上、降園連絡を利用して保護者啓発に努めた。１２月からは、降園時の挨拶当番を４・５歳児と保護者で行い、挨拶する意識をもてるようにした。

5月…挨拶週間(挨拶当番)「挨拶すると気持ちがいいね」 6月…「おはようございます」「さようなら」 7月…「ありがとう」 8・9月…「おはようございます」「いってきます」 10月…「おはようございます」「いってきます」「さようなら」 11月…「おねがいします」 12月…「さようなら」「よいお年を、お迎えください」 1月…「あけましておめでとうございます」「おはようございます」 2月…「おねがいします」「ありがとうございます」 3月…「ありがとうございました」 ○教職員が子どものモデルとなるよう意識をもち、進んで挨拶するようにした。また、挨拶する時間や場所によって、挨拶の言葉に違いがあることに気付かせたり、自分で挨拶の言葉を考えたり、機会をつくったことで自ら進んで挨拶しようとする気持ちにつながった。 取組内容④【基本的な方向2　豊かな心の育成】 ○園内委員会を月に1回行い、一人一人の子どもの実態や課題を教職員で共有した。保育後もその日の様子をすぐに伝え合い、子どもを多面的に捉え、幼児理解を深め、同じ方向で支援することができた。 ○週に2回以上、ほぼ毎日クラスで話し合う時間をもつことができた。5歳児の振り返りの時間には、楽しかったことだけでなく、うまくいかなかったことなども伝えられるようになり、その解決方法をみんなで話し合う様子も見られるようになってきた。4歳児では、相手の思いを受け入れることは難しいときもあるが、友達がどんな気持ちになったのかを知る機会が増えてきた。その中で、自分の話を聞いてもらえる嬉しさを感じたり、友達の思いや考えに気付いたりしながら、お互いを認め合う気持ちが少しずつ育まれてきている。 また、自分の気持ちや思いを言葉で表現することが容易でない子どもには、教師が一人一人の表情や様子など気持ちを推し量りながら、お互いの思いを伝え合えるように、その子どもに合わせた支援を行ってきた。相手がどのように感じたか気づくことが難しい時には、いろいろな表情の絵カードを使って知らせた。お互いを大切にする気持ちが育まれてきている。 ○子どもたちが育ち合う様子を毎月の「こはまっこだより」やホームページ、保護者会などで知らせた。また、参観や月末の保育室降園時には、保育のねらいや、子どもの心がどのように育ってきているか等エピソードを交えながら保護者に分かりやすく伝え啓発している。
次年度への改善点
取組内容①　今後も春の早い時期から機会を捉えて安全指導を行い、視覚物等の工夫をしたり、外部による安全指導も行ったりしながら、親子で安全に意識をもって過ごせるようにしていく。 取組内容②　実態に合わせて、多様な想定の避難訓練を積み重ねていく。また、4月当初に、2次避難の経路や、非常持ち出し袋の中身の確認し、いつ災害が起こっても行動のできるように準備しておく。また、非常持ち出し袋を季節ごとにも確認する。 取組内容③　絵本等の視覚教材を活用していく。また、挨拶する気持ちよさが感じられるように取組を保護者に伝え、園と家庭で協力しながら進めていくようにする。 取組内容④　自分の気持ちを伝えやすくするために、気持ちカード等の視覚物をさらに工夫していく。クラスでの心温まるエピソードを保護者に知らせながら、お互いを認め合う気持ちを家庭とも連携しながら育てていく。

（様式２）

大阪市立粉浜幼稚園　令和　７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した	Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった	Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 園の年度目標 ○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について、肯定的に回答する割合を年度当初より向上させる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向３　幼児教育推進と質の向上】 様々な活動を通して、体を動かして遊ぶことが楽しめるような環境や教師の働きかけの工夫をし、保育内容の充実を図る。 （就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進） 指標 ・学期に１回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、体を動かす楽しさが感じられるような保育内容や環境構成を工夫する。 ・学期に１回、保護者と共に、楽しく体を動かす機会をもつ。	A
取組内容②（基本的な方向５　健やかな体の育成） 園児の実態を把握し、健康的な生活習慣が身に付くよう指導の工夫をし、家庭との連携をはかる。（健康教育・食育の推進） 指標 ・年３回以上生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握する。 ・子どもの実態・発達に応じた保健指導を月１回以上実施する。 ・健康的な生活習慣が身に付くよう、家庭と連携した取組を月に１回以上実施する。（「ほけんだより」など）	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
年度目標 ○保護者アンケートにおいて肯定的な回答、「そう思う」の割合

項目	5月	11月	1月
① 「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」	「そう思う」 ８８％	「そう思う」 ９５％	「そう思う」 ８８％
② 「お子さんは、基本的生活習慣が身に付いてきていますか」	肯定的回答 １００％ (そう思う 63%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 68%)	肯定的回答 １００％ (そう思う 63%)

取組内容①【基本的な方向３　幼児教育推進と質の向上】

○１年間を通して１０回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、体を動かす楽しさが感じられるような保育内容や環境構成を工夫することができた。

４月	体操・かけっこ　など
５月	体操・かけっこ・サーキット遊び、水遊び、泥遊び、色水遊び　など
６月	水遊び、泥遊び、色水遊び、プール遊び　など
７月	プール遊び、土粘土　など
８・９月	忍者の修行、サーキット遊び、チャレンジ遊び（フープ、なわ、竹うま など)、玉入れ など)
１０月	サーキット遊び、チャレンジ遊び、和太鼓遊び、バルーン、玉入れ、鬼遊び など
１１月	大縄跳び、鬼遊び　など
１２月	ダンス、体操、しっぽとり、ボール遊び　など
1月	鬼ごっこ、転がしドッジボール、チャレンジ遊び　など
２・３月	チャレンジ遊び、鬼ごっこ、仲良し遊び　など

・1学期は、子どもたちの姿に合わせて、好きな遊びが十分にできる環境や時間をとることで、好きな遊びを見つけて、スケーターやジャンピングなど、体を動かして遊ぶことを楽しむ姿が見られた。９月の幼稚園教育研究会第３ブロック研究保育では、忍者になりきって修行する中で、様々に体の動かして遊ぶ楽しさや、挑戦したり、試行錯誤したりする楽しさが感じられるように環境構成を工夫した。季節や発達段階、子どもの思いに合わせて遊びの環境を工夫することで、子どもたちが楽しんで遊ぶ姿や友達同士で関わって遊ぶ姿が見られた。また、遊びの中で多様な動きが身に付いていく様子も見られた。
３学期は、ルールのある遊びとして、いろいろな鬼ごっこやボール遊びを、友達と一緒に体を動かしながら楽しむ様子が見られた。

・今年度は、子どもたちが楽しく体を動かして遊びながら、運動習慣を身に付け体力が向上することを目指し『すみのえ運動遊びプログラム事業』として、園と住之江区役所と(株)ミズノスポーツサービスが連携して取り組んだ。

実施日		活動内容
5月 30 日 6月 10 日	活動量の測定	好きな遊びの時に、活動量計を付けて測定。
6月 19 日	忍者ごっこ	・変身 ・綱渡り、フープとび、ハイハイ、くぐるなど
7月　4日	忍者ごっこ(ミズノプレイリーダーによる実践)	・くぐる、片足立ちをする、走る　など
7月 14 日	運動遊びの研修（教職員）	・ミズノプレイリーダー３級研修（座学） ・実技研修

10月27日	フープで遊ぼう①	・フープを使った好きな遊び、引っ越しゲーム、２人組での遊び　など
11月　7日	フープで遊ぼう②	・フープを使った好きな遊び、引っ越しゲーム、フープくぐり　など
11月13日	フープで遊ぼう③	・フープを避ける、フープくぐり など
12月12日	ボールで遊ぼう①	・ボールに触れて遊ぶ、友達とペアになって転がす　など
1月16日	ボールで遊ぼう②	・ボールに触れて遊ぶ、転がしドッジボール　など

・研究保育では、イメージがふくらむような環境や言葉かけを工夫したり、また、フープやボールを使って様々な運動遊びができるように内容を考えたりしたことで、子どもたちが、遊びの中で「走る」「しゃがむ」「止まる」「這う」「跳ぶ」等、様々な体の動きを楽しむ様子が見られた。また、討議会では、活動時の映像を見ながら、今後の保育に生かせるような、具体的な実践方法を教えていただいた。

○１学期に４回、２学期に３回、３学期に２回、保護者と共に、楽しく体を動かす機会をもつことができた。子どもたちが楽しんでいる運動遊びを保護者と一緒にすることで、子どもたちがどのようなことを楽しんでいるのか感じてもらうことができた。

実施日	行事	実施内容
4月23日	保育参観	・好きな遊びを一緒にする ・体操を一緒にする
5月28日	親子オリエンテーリング	・ラリーカードを用いて、一緒に体を動かす遊びや自然探検等をする ・パラバルーンで遊ぶ
6月11日	５・６月誕生会	・一緒に体操や仲良し遊びをする
7月　7日	７月誕生会	・一緒にゴム跳びや体操をする
10月11日	運動会	・ダンシング玉入れで遊ぶ
10月22日	10月誕生会	・パラバルーンで遊ぶ
12月10日	11月・12月誕生会	・フープで遊ぶ
3月3日	３月誕生会	・「お誕生月なかま」をする
3月4日	お別れ会	・親子で体を動かして遊ぶ

取組内容②【基本的な方向５　健やかな体の育成】

○年３回、生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握することができた。

５月連休前：「げんきカレンダー」（生活習慣調査）起床・就寝時間、朝食、排便の様子を把握。大きくくずれることなく、連休中も生活リズムを意識して過ごしている様子がうかがえた。

夏期休業中：「なつやすみやくそくひょう」起床・就寝時間とともに家庭での様子を把握。「就寝が遅くなっているときもあったが、早起きは頑張っていた」など、生活リズムを頑張って立て直す様子が見られた。

冬期休業中：「ふゆやすみやくそくひょう」起床・就寝時間、寝る前の歯磨きの様子とともに家庭での様子を把握。年末年始は決まった時間に寝ること・起きることが難しい日もあったが、生活リズムが崩れないように意識して過ごしている様子がうかがえた。また、風邪をひかないように手洗い・うがいを家庭でも取り組んでいる様子も見られた。

○子どもの実態・発達に応じた保健指導を月１回以上実施することができた。

４月	手洗いの仕方
５月	トイレの使い方
６月	自分の体を大切にしよう「プール遊び時の着替え」
７月	夏野菜の働き / 自分の体を大切にしよう 絵本「だいじ だいじ どーこだ」
９月	熱中症予防
10 月	目の大切さについて
11 月	命の誕生・命の大切さについて
12 月	風邪の予防（手洗い・うがい・咳エチケット）
１月	生活リズム・朝ごはんの大切さについて
２月	衣類の調節・冬の安全な過ごし方について
３月	体の成長・健康な生活習慣について/ 耳の大切さについて

１学期は、生活習慣に関するもの、食育、性に関するものと幅広い内容について保健指導をすることができた。性に関する内容については、体の中でも特別大事な「プライベートパーツ」があること、プール遊びの着替えの時には「パンツ・シャツから先に着ること」「素早く着替えること」「裸のまま歩き回らないこと」などを伝えた。また、絵本を読んだり、具体的な場面を挙げてクイズを出すことで、自分の特別大事なところを守るためにどうしたらよいのかを考える機会になった。自分の体を大事にすること、同じように友達の体も大事にすることを２回に分けて伝えることができた。

２学期も、自分の体を大切にするため幅広い内容について保健指導をすることができた。また、命の誕生・命の大切さについては妊婦の養護教諭から話を聞き、実際にエコー写真を見たりお腹を撫でたりして､「自分も大切にされて生まれたこと」を感じる貴重な機会になった。

３学期も季節に応じた内容について保健指導をすることができた。指導後、使用した教材を子どもの目につく場所に掲示したり、様子に合わせて声をかけたりして、指導した内容が定着するようにした。

○健康的な生活習慣が身に付くよう、家庭と連携した取組を月１回以上実施できた。

〈保健だよりで取り上げた内容〉

４月	朝ごはん　生活リズム　排便
５月	疲れ解消のポイント　早めの熱中症対策
６月	食中毒予防　熱中症予防　/　虫歯予防　/ プール遊びについて
７月	熱中症　/　夏休みの過ごし方
８・９月	足に合った靴選び　防災　生活リズム
10 月	薄着で抵抗力アップ　目の愛護デー
11 月	湯舟に浸かる効果　風邪予防（手洗い）
12 月	冬の感染症　インフルエンザにかからないためのポイントや出席停止期間 新学期を元気に迎えるコツ
１月	生活リズムを取り戻そう　良い姿勢について
２月	寒い冬を元気に過ごそう
３月	耳の役割　耳を大切にしよう

〈『おうちで　できるかな』を作成し配付〉

６月：「寝る前の歯磨き」 ７月：「朝ごはんを食べること 野菜を食べること」保護者から「苦手な野菜を食べることができるようになった」「新しい野菜にチャレンジしてみた」などの意見が聞かれ「食べてみよう」という気持ちにつながった。

９月：「熱中症予防のため朝食とともに水分をとること」１０月：「目を大切にするための約束　目の体操」１１月：「外出後、食事前の手洗い・うがい」園での取組が家庭でも継続して行えるように、園と同じ「手洗いの仕方」「うがいの仕方」のイラストを記載し、切り取って掲示できるようにした。保護者のコメントから、家庭でも実践している様子が分かった。 ２月：「着替えの時や、用便の後に、シャツの裾をズボンの中に入れること」 〈関係機関や園医と連携した啓発〉 ６月：食育講座。保護者と共に食育ラリーを実施した。食育かるたや野菜の花クイズなどを楽しみながら、様々な野菜に興味・関心をもつきっかけになった。保護者への講話では、食事の栄養バランスや噛むことについて聞くことができた。９月：歯磨き指導・子どもの歯を守る懇談会。歯磨き指導では、園での保健指導を保護者に実際に見てもらい、家庭でも継続して行えるようにした。講話では、保護者からの質問を中心に歯の健康と生活習慣の関係など話を聞いた。保護者から「歯みがきの大切さを改めて感じることができた」との声があった。

次年度への改善点	
取組内容①	次年度も、子どもの実態に合わせて体を動かして楽しめるような内容を工夫していく。
取組内容②	次年度も引き続き、教職員と相談・連携をし、子どもの実態に応じた保健指導を行うとともに、個々に合わせた指導や継続した指導、言葉かけをして、指導内容が定着するようにする。園での取組（保健指導）を降園連絡やホームページなどで家庭に周知・啓発し、家庭でも定着するように、家庭との連携の仕方（「おうちでできるかな」など）を工夫していく。

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 園の年度目標 ○本年度末の職場内アンケートにおいて「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか」「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を８０％以上にする。 ○本年度末の保護者評価アンケートにおいて、「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」の項目について、「そう思う」と回答する割合を８０％以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 全教職員が健康で生き生きと働くことができるよう、働き方改革推進プランに基づいた取組を実施する。（教員の資質向上・人材の確保） 指標 ・働き方改革推進プランに基づき、週１回のゆとりの日を設定し、効率的に仕事を進める。	B
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上を図る。（教員の資質向上・人材の確保） 指標 ・年２回以上、実践記録をとり、研究討議を行う。 ・学期に１回以上、研修会や他園参観などに参加し、学びを共有する。 ・各教員１回以上、全教員で年に１回、研究保育を実施する。	A
取組内容③【基本的な方向９　家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 家庭や地域に幼稚園の取組内容を知らせ、子どもの成長を共有する。 （地域学校協働活動の推進） 指標 ・学期に１回以上、子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけ、小学校教育につながる遊びの中の学びの芽などについて、手紙や降園連絡、保護者会などで分かりやすく保護者啓発を行う。 ・週に２回以上、ホームページの更新を行い、具体的な保育の取組や子どもの育ちを知らせる。 ・他校種との交流や、地域の方々とのふれあいなど、学期に３回以上、実施方法を工夫して行い、連携を図る。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○職場内アンケート、保護者アンケートにおいて肯定的な回答、「そう思う」の割合

項目	5月	11月	1月
① 職場内アンケート「仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか」			肯定的な回答 １００％
② 職場内アンケート「様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか」			肯定的な回答 １００％
③ 保護者アンケート「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携を工夫している」	「そう思う」 ７５％	「そう思う」 ８１％	「そう思う」 ７９％

取組内容①

○働き方改革推進プランに基づき、効率的に仕事ができるよう、週１回のゆとりの日を実施した。繁忙期には実施することは難しい時もあったが、職朝にゆとりの日であることを知らせたり、園全体で退勤時間の目標を決めたりしたことで、各自の意識が変わりつつある。

職員会議や打ち合わせの効率化を図る。（事前に議題や内容についてのレジメを配付し、各教職員が議題を理解し、会議に参加する。会議までに係と打合せ内容や進捗状況の確認をし、時間の短縮につなげる）

行事の係が進捗状況を担当者に確認したり､言葉をかけたりして共有しながら進めていくようにした。

取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

○１学期に２回、２学期に１回実践記録をとり、研究討議を行うことができた。

○１０回以上、研修会や他園参観などに参加し学んだことを伝えたり、研修資料を回覧したりすることで、学びを共有することができた。

〈教職員の資質向上につながる研修の一部〉

実施月	研修内容
５月	学校プール衛生・安全管理講習会
６月	人権地域研修、日吉幼稚園　研究保育
７月	音楽会研修、ミズノプレイリーダー３級研修、上級救命講習、専門研修
11月	造形表現・図画工作・美術教育全国大会
１月	府国公立幼稚園、子ども園研究発表会、絵画研修

○１０回以上（各教員２回以上、全教員で年に２回以上）計画以上に研究保育を実施することができた。

研究保育について複数人の視点から分析したり、話し合ったりすることで、多角的に見ることができた。幼児理解につながったり、教師の言葉がけや配慮、環境の工夫、安全への配慮などについて研修が深まった。また、様々な研修に参加することで、自身の資質向上につなげることができた。

〈実施した研究保育〉

実施日	内容	
6月	自分の体を大切にしよう「プールの着替えの仕方」	保健指導　各学年
	※忍者ごっこ	運動遊び　全学年
7月	自分の体を大切にしよう 絵本「だいじだいじ　どーこだ」	保健指導　全学年
9月	・園内研究支援 ・第3ブロック研究部　研究保育 （忍者ごっこ）	運動遊び　全学年
10月	※フープ遊び①	運動遊び　全学年
11月	※フープ遊び②、※フープ遊び③	運動遊び　全学年
12月	※ボール遊び①	運動遊び全学年
1月	・※ボール遊び② ・園内研究支援	・運動遊び全学年 ・生活発表会に向けて　各学年 （劇遊び）

※『すみのえ運動遊びプログラム事業』では、研究保育後にビデオを活用し、振り返りを実施した。

取組内容③【基本的な方向９　家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

○「こはまっこだより」やホームページで子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけについて知らせた。

保護者会では、文部科学省のビデオ「遊びは学び　学びは遊び」を視聴、幼児期の遊びの重要性や小学校教育につながる学びの芽について知ってもらう機会となった。

○週に２回以上ホームページを更新することができた。１学期の保護者会では、ホームページに掲載した内容をスクリーンで見ながら、子どもの育ちや教育的意図をもった働きかけなどを具体的に知らせた。ホームページを見ていない保護者にも啓発ができた。

○他校種との交流や地域の方とのふれあいを、学期に３回以上工夫して行い、連携を図ることができている。

いちごクラブ (1学期７回、２学期９回 ３学期３回)	その季節ならではの遊びや園児が興味をもって楽しんでいる様々な遊びを一緒にし、未就園児や保護者が体験する機会や幼稚園教育の理解につながるよう内容を工夫した。園児が一緒に遊ぶとともに、責任をもって受付も体験できるようにすることで、年下の友達(未就園児・保育園児)にさらに優しく声をかけたり接したりする姿が見られた。
住吉幼稚園 (1学期１回)	ザリガニ釣りをし、園ではできない体験をした。釣り方を教えてもらったり、親しみをもったりするなど、同年代の友達とふれあうよい機会になった。
小中学校交流 （２学期２回、３学期２回）	○住吉第一中学校３年生との交流(１１月３回全園児) 事前に中学校の先生と打ち合わせを密にすることで、学習内容や園のねらいなどお互いの教育の理解した上で、目標を明確にして交流することができた。交流を通して子ども

		たちに憧れの気持ちが育まれ、中学生と同じように『自分の絵本をつくる』『大縄跳びに挑戦する』など心を動かして挑戦する姿が見られた。 〇粉浜小学校１年生との交流（１１月５歳児） 『秋のおもちゃランド』に招待してもらい、様々な手づくりおもちゃで楽しく遊ぶ経験ができた。憧れの気持ち・安心感・入学への期待につながった。 〇北粉浜小学校１年生との交流（１月全園児） 校庭で、１年生と一緒に凧揚げをした。部屋に案内してもらい、学習の道具を見せてもらうなど、学校の様子を知る機会となった。小学生の優しさにふれることができた。 〇粉浜小学校との交流（２月５歳児） 粉浜小学校で１年生と昔遊びをしたり、学校探検をしたりしたことで、１年生の優しさにふれ、憧れの気持ちや進学への期待が高まった。
	住ノ江図書館絵本の会 （２学期と３学期に各１回）	絵本読み聞かせ。地域の教育力を活用し、子どもたちが様々な絵本にふれたり、読んでもらううれしさを感じたりできるようにした。
	おじいさんおばあさんの集い（２学期１回）	祖父母と一緒に昔遊びを楽しむことができるように環境を考え準備した。優しく接してもらい、親しみの気持ちが育まれるようにした。
	文化の集い（２学期１回）	自由参加。 粉浜小学校講堂で、子どもたちの歌やダンスを披露した。たくさんの拍手をもらい、子どもも保護者も、地域の方に見守ってもらっている安心感につながっていた。
	修了進級おめでとうお茶会 （３学期１回）	地域の方に先生になってもらい、お茶会をした。日本の文化に触れる良い機会になったとともに、地域の方への感謝の気持ちも生まれた。

次年度への改善点
取組内容①　行事の打合せや反省は、保育終了後だけでなく、職朝時などの隙間の時間も有効利用し、仕事の効率化を図る。 行事の出欠確認や連絡等、内容に応じてコドモン等のＩＣＴも活用していく。 取組内容②　研修で学んだ内容を他の教職員に伝達して共有できる機会が増えるように、朝の職員会議や、隙間時間を活用していくなど、工夫していく。 取組内容③　今後も小中学校との交流の際、お互いのねらいや願いなどを伝え合い、教育内容の連携を図っていく。 保護者に子どもの育ちを伝える際、小学校教育につながる学びの芽について具体的な例をあげて知らせていく。 来年度は、園児数が少なくなるので、様々な方と交流する機会を更に充実させ内容を工夫し、計画的に進め連携を深めていく。